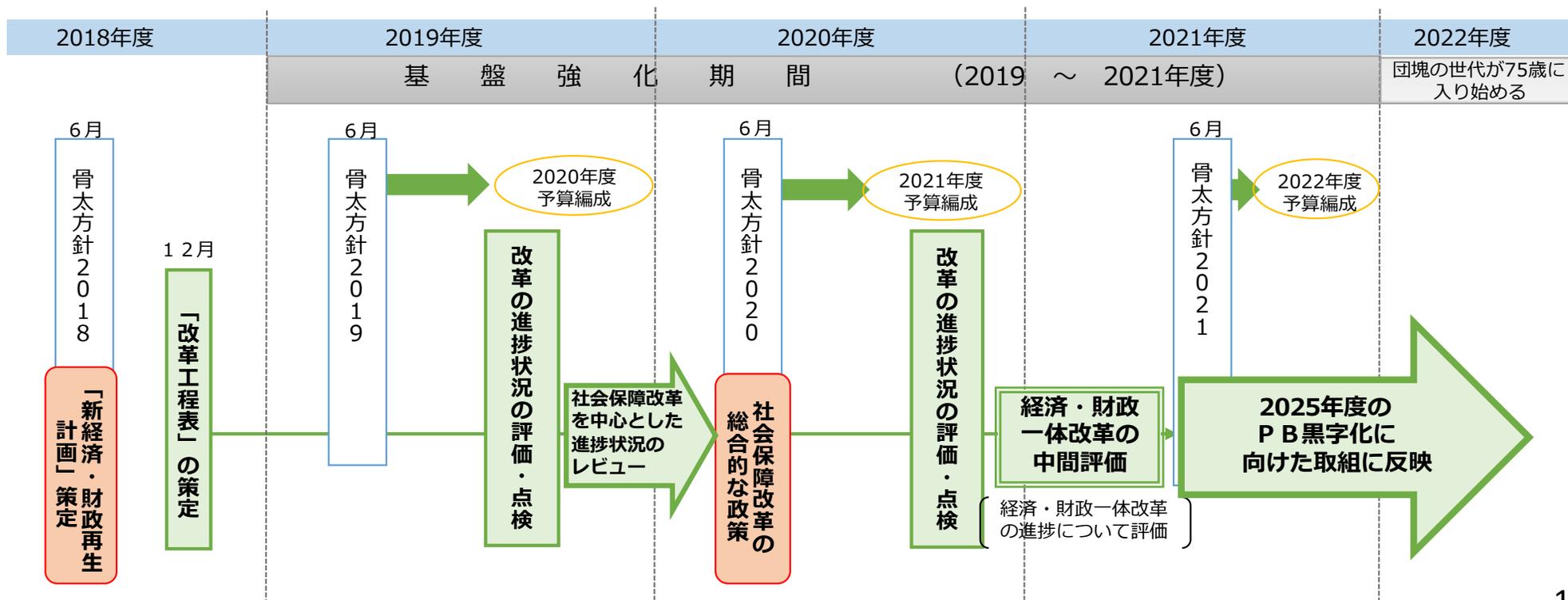


「新経済・財政再生計画『改革工程表』」について

資料 1

- 「経済財政運営と改革の基本方針2018」(平成30年6月15日閣議決定)において定められた「新経済・財政再生計画」の改革事項の進捗管理、点検、評価を行い、翌年度の骨太方針、予算さらにはKPIの見直し等への反映を行う
- このため、新改革工程表では、以下の点を強化
 - ・ 行動変容に働きかける取組を加速・拡大する観点から、成果をより定量的に把握できる形にKPIを見直し
 - ・ 見える化、効果的な情報発信・選択肢の提示等を具体化
 - ・ 制度改革等が目指す成果、その道筋をロジックモデルで提示



新改革工程表の構成（「ロジックモデル」と「改革工程」）

1) 「ロジックモデル」

政策のアンブレラ（大きな括り）の設定による改革項目の体系化と取組の進捗・成果を定量的に把握できるK P Iの設定により、**目指す成果への道筋を示す。**

« K P I の設定に関する方針 »

(1) 定量的なK P Iであること

取組の進捗、成果を、取組主体の主観でなく客観的に評価するため、定量的なK P Iである必要
※ 骨太方針2018において、「行動変容に働きかける取組を加速・拡大する観点から、成果をより定量的に把握できる形で改革工程表のK P Iを見直す」とされている。

(2) 実績値が更新可能なK P Iであること

取組の進捗、成果について毎年度、評価・点検を行う。適切な評価・点検に基づきP D C Aサイクルを回していくためには、毎年度実績値が更新されるK P Iである必要

(3) 目標値について

それぞれの階層のK P Iは、取組の進捗、成果を測定する指標であるが、当該指標に関して関係する計画等で目標値が設定されているものについては、目標年と併せて必ず記載。これ以外の場合においては、可能な限り目標値又は指標の推移として目標とする傾向（増加、減少等）を記載

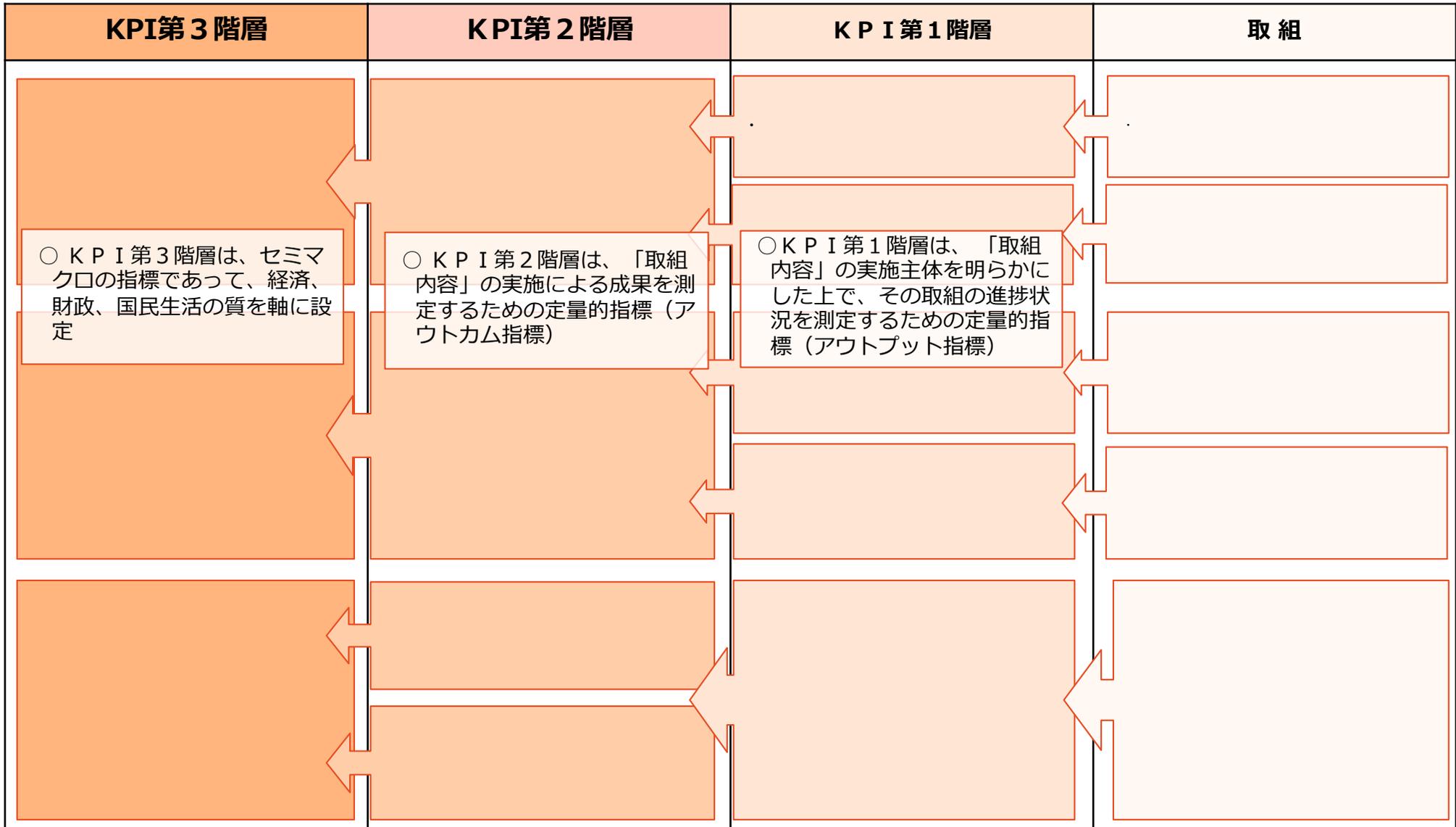
2) 「改革工程」

基盤強化期間における取組の実施主体、時期、手段を示す

【様式：ロジックモデル】

(アンブレラ項目 (大項目))

アンブレラ項目 (大項目) ごとに作成



【様式：改革工程】

	取組事項	実施年度			K P I	
		2019年度	2020年度	2021年度	第1階層	第2階層
(大項目)		○「新経済・財政再生計画」に挙げられた事項について、取組の実施時期・手段を明記				
		○分野ごとの各項目を大きくくりにする大項目（アンブレラ項目）を設定				